

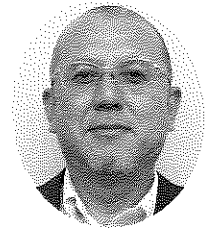
会報

★ 広島県高P連

発行所

広島市中区八丁堀11番28号
朝日広告ビル4F
広島県高等学校
PTA連合会
電話(082)223-3347
FAX(082)223-3351
HP hiroshima-koup.sakura.ne.jp
※HPアドレス変わりました↑↑

NO. 153



就任御挨拶

広島県高等学校PTA連合会

会長 北村 正次

平成二十七年年度広島県高等学校PTA連合会定例総会において、会員の皆様方の同意をいただき、承認され、今年度の広島県高等学校PTA連合会会長を務めさせていただきます、北村です。

これまでの三年間の副会長の経験を活かしながら、子供たちの為に頑張っ

て行きたいと思えますので、皆様方の御支援、御協力の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、昨今の目まぐるしく変わっていく情勢は、教育関係にも押し寄せて

います。ネット社会による、如何なる時でも

自分の知りたい情報は、好きなだけ入ってくることや、十八歳からの選挙権

導入、入試制度の改革など、子供達に関わる事が次から次へと問題は山積み

し、日々変わってきています。私達PTA、保護者もそういった情

報を集め、勉強し、子供達の為に役立

てていかななくてはなりません。

広島県高等学校PTA連合会は五つの委員会があり、それぞれに活動して

います。総務委員会は、本会の運営、企画、

教育委員会への要望書のとりまとめと

陳情、福利厚生に関すること。研修委員会は、単P会長研修会、そ

の他会員の研修に関すること。調査広報委員会は、PTA活動等の

調査・研究、広報活動の推進、会報の発行等に関すること。

健全育成委員会は、生徒の健全育成

事業及び活動、交通安全の推進、社会教育関係事業等に関すること。

進路対策委員会は、生徒の進路(進学・就職等)、情報の収集・調査研究

その他生徒の進路対策等に関すること。このように年間、何らかの形で、各

委員会が活動し、子供たちのために頑張っていたいております。この活動を通じて、平成二十七年年度の事業方針にあるように、

「自ら学び、考え、主体的に判断し、行動できる力を持ち、創造性に富む、心豊かな児童、生徒の育成は、教育の原点は過程にあることを自覚し、生起する社会の諸問題等当面する課題解決のため、県高P連として、家庭の教育力向上、学校・家庭・地域の連携強化ならびに、開かれた学校づくり・特色ある学校づくりに協力するPTA活動を推進する。」

を今年度の基本とし、広島県内各地区連とも連携を密にしながら、情報を共有し、PTA会員の一人一人が意識を高め合い、広島県一丸となり、未来ある子供達の為に、頑張っ

て行きたいと思えます。その為に、今年度もスタートしましたが、県内国公立及び海上保安大学の説明会並びにリクルートより講師をお招きして講演を行う進学説明会。

呉地区主管の広島県大会、先進校視察、全県一斉あいさつ運動、年二回の単P会長研修会、教育委員会への要望書作成、各種大会への参加等の事業に取り掛かっています。

終わりに、皆様方の興味が湧き、意識の向上、共有ができ、せつかくするのだからわが子の為に楽しく、有意義なPTA活動がおくれる事を願い、挨拶とさせていただきます。

平成二十七年定例総会

とき 平成二十七年六月九日（火）
ところ 広島県民文化センター

平成二十七年定例総会を、県内加盟各校より、被表彰者を含む三百三十四名もの多くの会員の皆様に御出席いただきました。

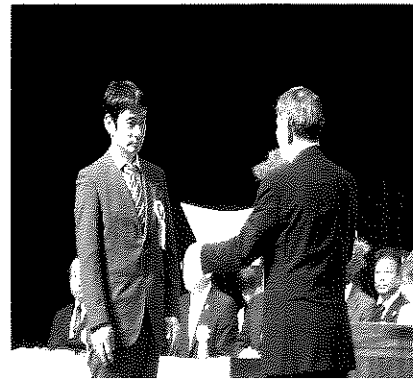


司会は、慣例となっており、前年度県高P連総務委員長広島市立基町高等学校PTA前会長亀岡洋海氏が行いました。

開会のことばを北村正次副会長が行い、国歌斉唱のあと、中津久美子会長が挨拶を行いました。

次に、PTA活動に御尽力いただいた会員の方への感謝状・記念品の贈呈が行われ、まず始めに広島県教育委員

会教育長感謝状が、下崎邦明県教育長より授与され、受賞者十二名を代表して、広島県立尾道商業高等学校前PTA会長山室学司氏が受領されました。



次に、県高P連会長感謝状が、中津久美子会長より授与され、百四十三名を代表して、広島県立呉宮原高等学校前PTA会長船尾慎氏を受領されました。



被表彰者を代表し、広島県立祇園北高等学校前PTA会長の佐々木道宏氏が謝辞を述べられました。



次に、御来賓の広島県副知事松下善昭氏、広島県議会副議長佐々木弘司氏、広島県教育委員会教育長下崎邦明氏、広島市教育委員会青少年育成部長熊田

一雄氏、広島県公立高等学校長協会会長立上良典氏より御祝辞を頂きました。

御祝辞を頂いた五名の御来賓以外に、広島県PTA連合会会長山田睦浩氏、広島市PTA協議会専務理事三好尚子氏、広島県公立学校事務長会会長中本典之氏、県高P連元会長上田利徳氏、小川嘉彦氏、川上千里氏、中河原圭司氏に御臨席いただきました。

開会行事終了後、定足数について土谷流廣事務局長が行い、総会成立の報告をいたしました。

総会議事に移り、議長に金井栄一副会長を選出し、議事録署名人に、広島県立広高等学校PTA会長濱本智己氏、広島県立尾道東高等学校PTA会長一色伸良氏を選任しました。

続いて、平成二十六年定例会務・事業報告が北村正次副会長より行われ、提案どおり承認されました。

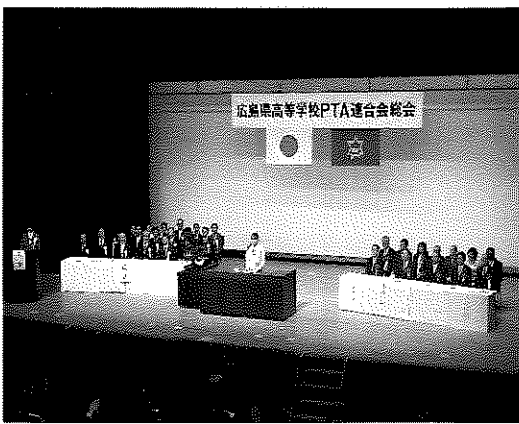
会計決算報告は、土谷流廣会計が会計ごとに決算内容を説明、監査報告を監査委員の広島県立高陽高等学校前PTA会長長谷川知子氏が報告し、承認されました。

また、広島土砂災害義援金、東日本大震災義援金についての報告もあわせて行いました。

【会場からの質問・意見】

(市立高校 副会長)

PTA・教育振興特別会計について





はの経緯はよく理解できたが、今後、この高額な会計をどのように使っていくか、こうとしているのか。

(県高P連会長)

現在は、各地区連への補助、平成二十六年でいうならば、広島土砂災害で災害に見舞われた県高P連会員への見舞金、PTA・教育振興のために使用。

県からの補助金等がなければこちらの会計に食いつく。

今後、諸団体への補助金として支出していきたい。

(市立高校 副会長)

せつかくの財産なので有効に使っていただきたい。



(県高P連会長)

財産なので、各地区連、各団体への補助金として有効に使っているのが現状。

次に役員選出に移り、平成二十七年県高P連会長には北村正次が会長に選任されました。

続いて、県高P連副会長四名には、

広島県立吉田高等学校元PTA会長金井栄一副会長、広島県立河内高等学校前PTA会長土居篤史副会長が選出され、新たに、広島県公立高等学校校長協会から広島県立広島高等学校檀上満校長、広島県立府中高等学校前PTA会長の根来寿雄氏が選任されました。

又、あらかじめ各地区連合会より選出された県高P連幹事、監査、常任委員については、提案どおり承認されました。

旧役員を代表して、中津久美子前会長より挨拶を、新役員を代表して北村正次会長が挨拶を行いました。

平成二十七年事業方針(案)事業計画(案)について北村正次会長より説明を行いました。

続いて予算(案)が提案され、承認されました。

【会場からの質問・意見】

(県立高校 P会長)

会費が減少しているにも関わらず、人件費がアップしている。その根拠は何か。

(県高P連 会計)

人件費は県の給料表2級で決めているので昇給させている。事務局長は据え置きである。

(県立高校 P会長)

学校にクラブ指導料の助成をいただけないのか。

(県高P連会長)

教育振興助成費をクラブの補助金だけのためにとは現在考えていない。

このようなことに関しては毎年、県への要望をしている。

この教育振興助成費からクラブ助成費をといることになればどこもかしこも手をあげるようになる。

現時点で、会費の値上げをせずに会員の皆さんに負担をかけないように考えている。

県へ要望を出していく方が重要と考

えている。

(県立高校 P会長)

特別行事項積立金会計は積み立てているのでなく毎年預金のみ。今後どうするのか。

また、教育振興特別会計のように大きなお金が無くなった場合には会費値上げとなるといつつ予算が余裕を持って計上されている。

この点はいかがか。

(県高P連会長)

教育振興特別会計は、昨年は広島豪雨災害で被災された方への義援金としていち早くお送りできた。

そういう時に使える会計と考えてほしい。

特別行事項積立金は平成二十三年に行った中四国大会の残金。これは次の大会の時に使用するしかできない会計。

予算も幅を持っているのは毎年変わりなく行っている。本年度だけではない。

会場より熱心な質問、御意見をたくさん頂戴しました。

無事、議事が終了し、閉会のことばを土居副会長が行い、閉会いたしました。

その後、ANAクラウンプラザホテル広島にて、新旧役員・会員の歓送迎会をかねた情報交換会が行なわれ、三百三十名もの多くの会員の方が参加され、交流を深めていただき、盛会のうちを終了致しました。

(県高P連事務局)

平成二十七年 第二回常任委員会

とき 平成二十七年六月二十三日
ところ 広島YMCA国際文化センター
本館会議室

平成二十七年第一回常任委員会が開催され、四十四名の会員が参加しました。

司会は、土居篤史副会長が担当し、続いて、北村正次会長の挨拶のあと、御来賓として出席された、広島県教育委員会事務局生涯学習課課長十時明子氏、広島県公立高等学校長協会副会長檀上満氏より御挨拶を頂きました。

次に、土谷流廣事務局長より、定数の報告を行い、常任委員会成立を報告致しました。

議長には根来寿雄副会長を選出し、議事録署名人に広島県立福山工業高等学校PTA会長松浦正博氏、広島県立三次青陵高等学校PTA会長富永孝司氏が選ばれました。

続いて議事にうつりました。まず、顧問・参与の委嘱について、人事案を提案し、原案どおり承認されました。

次に、平成二十七年県高P連事業については、
①単P会長研修会

第一回（八月一日）
第二回（平成二十八年一月二十三日 予定）

広島YMCA国際文化センター
国際文化ホール外
第一回は時間の関係上、県連会長・副会長・事務局で計画し、第二回は、

研修委員会が中心となり、委員会活動の一環として企画立案・実施することなどの説明がありました。

②広島県大会
平成二十七年十月十八日（日）
呉市 呉市文化ホール

呉地区連合会のお世話により実施することを報告しました。
③進学説明会
平成二十七年九月十九日（土）
広島県民文化センター

昨年度より引き続きの事業として進路対策委員会を中心となつて行うこと、本年度は会場の確保が難しく、遅い開催となることの報告がありました。

④全県一斉あいさつ運動
平成二十七年十一月二日（月）
例年、十一月一日を予定としておりましたが、休日と重なるため、本年度は日にちを変更したこと、昨年に引き続きポスター募集を行うことの報告がありました。

議事が終了した後、各委員会に分かれて委員会協議を行いました。

各委員会では委員長、副委員長の互選並びに本年度事業計画について協議いただきました。その後全体会で各委員長委員長より委員長・副委員長の発表、一年間の委員会活動について報告

され、すべての議事が滞りなく終了致しました。
各委員会の委員長・副委員長は次のとおりです。

（県高P連事務局）

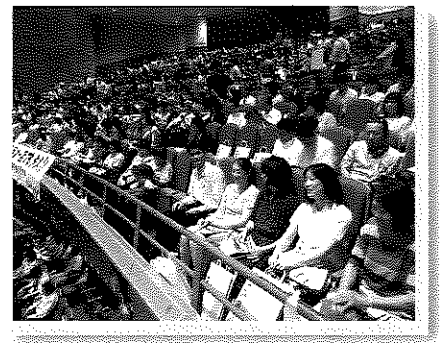
総務委員会			
(委員長)	広島県立広高等学校	PTA会長	濱本智己
(副委員長)	広島市立沼田高等学校	PTA会長	石橋良修
研修委員会			
(委員長)	広島市立美鈴が丘高等学校	PTA会長	吉本和弘
(副委員長)	広島県立安芸南高等学校	PTA会長	三宅聡
調査広報委員会			
(委員長)	広島県立安古市高等学校	PTA会長	岡田哲成
(副委員長)	広島県立佐伯高等学校	PTA会長	大久保学
健全育成委員会			
(委員長)	広島県立五日市高等学校	PTA会長	伊福聡
(副委員長)	広島県立安芸高等学校	PTA会長	磯永美穂
進路対策委員会			
(委員長)	広島市立広島工業高等学校	PTA会長	岡本知子
(副委員長)	広島県立廿日市高等学校	PTA会長	藤井健二

七月十日（金）岡山市にある岡山市民会館において、第五十七回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会岡山大会が開催されました。

「つなごう子育て 結ぼう手と手」
く晴れの国からもんげー夢をくの大会テーマのもと、少子高齢化が進む中、私たちの未来そのものである子供たちを大人たちが連携して協力して大切に育てていこうという思いが込められています。



この日、中国・四国九県から高等学校PTA会員、大会の運営を支えて頂いた岡山県スタッフの皆様、協力校の生徒の皆様を合わせると約千七百名の参加があり盛大に開催されました。開会式では、岡山大会小川浩基実行委員長、岡山県視覚障害者協会理事の竹内昌彦氏による講演がありました。



その話の中で、四十八年前、世界で最初の点字ブロックが岡山市の道路に敷かれた事を紹介してくださいました。点字ブロックの発祥が欧米でなく日本の岡山であることを恥ずかしながら今回初めて知りました。また、点字ブロックの上に物を置かないで！の運動も行われています。続いて、竹内氏自身が、中国から引き揚げの時に肺炎を起し、その熱で右の眼の視力を失った事をお話されました。

第五十七回
中国・四国地区高等学校PTA連合会大会
岡山大会
とき 平成二十七年七月十日（金）
ところ 岡山市民会館

岡山県教育委員会教育長竹井千庫様の挨拶を頂き、岡山県知事伊原木隆太様、岡山市長大森雅夫様より祝辞を頂きました。

開会行事に続き、「私の歩んだ道」
見えないから見えたもの」と題して、岡山県立岡山盲学校講師、社会福祉法人岡山県視覚障害者協会理事の竹内昌彦氏による講演がありました。

少しだけ見えた左目を頼りに普通の小学校へ入学し、目がよく見えないう理由でいじめに遭れたそうです。しかし、そのいじめに対して持ち前の負けん気で消火器の消火剤や砂場の砂をまいて、立ち向かった話、クラスみんなで竹内君をいたわろう、みんなで考えていこうとする気持ちを根付かせ、何が人として正しい行ないかを、きちつとクラスのみんなへ教えてくださった、先生との出会い、網膜剥離で



完全に視力を失ってから、盲学校へ行く決心の話、目が見えない分、強靱な体と強い精神力をつけるために、父親が積極的に外に連れ出したり、本を読んでもくれたことなど、これまで竹内氏が経験したことやその周りの人たちの関わりなどを詳しく話されました。

講演の中では一貫して障がいへの理解、いじめ苦やその他の理由による自死に対する命の大切さを訴えられました。

先日、中学生の男の子が飛び込んで死んでしまったことに触れ、竹内氏の思いをこう話されました。
「さぞかし辛かったろう、悔しかったら、悲しかったら、自分自身の体験から思うが、同時に腹も立つ」「何で死ぬやつがあるか」「みんなは自分の命を、自分一人のものと思おうとるんじゃないか。それは間違いだ

ぞ。みんなの親は、今すぐこの場で、わが子の身代わりで死ねと言われたら親はいつでも子どものためなら死ねる親はそんな思いで、みんなを大きくしているのを知らんのか。みんなは自分の命とお父さんの命とお母さんの命ともつと言えばおじいさん、お婆さんの命まで抱えて、今大きくなりよんぞ。それなのに自分だけの勝手な考えで、首なんかつって死ぬやつがあるか。残った親は明日から何を生きがいにして、何を希望に生きてええか解らんようになるぞ、みんなは、元気で何事もなくなる様な病気をしねえ。この目が見えなくなつた時、私の前で親がどんなに悲しみ、苦しみ、そして戦つてきたか見てきた。目が見えなくなつたから気が付いた。だから、それをみんなに教えたいんですよ。」



竹内氏は長年蓄えていた自らの講師謝金や自伝書に寄せられた募金などをもとに、視覚障がい者のための職業訓練校をモンゴルに設立するなど、国際的にも多くの貢献を今でも継続して行つておられます。

本年三月には、竹内氏の活動を支援する団体が製作した映画も公開されました。

講演の最後に、次の言葉を頂いて講演が終了しました。

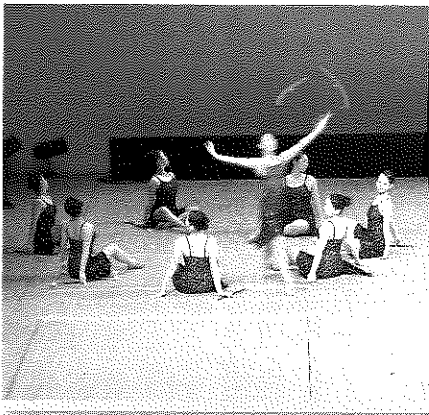
「人生つて皆さん思うようにいったですか。思うようにいかん人が多い。私も目の見えん人生をもううてつまらんと思つた。でもねえ、ぼやいてもこの目は治らなかつた。この状態で力一杯やるしかなかつたんですよ。でもねえ、力一杯やつたらねえ。面白うなつた。生きがいが見つかつた。人が認めてくれた。そこに、幸せへの入り口があつたとゆう事ですよ。だから、皆さんの子ども達も、思うようにいかない時、親から、そこで力一杯やつてみる、面白くなつてくる、生きがいが見つかると、人が認めてくれる、そこに、幸せへの入り口があるぞとゆう事をねえ。励ましの一つに持つて帰つてくれると嬉しいですよ。」

午後からは生徒による発表がありました。岡山県立高松農業高等学校 郷土芸能部による和太鼓の演奏がありました。

オリジナル曲「祭」と地元、最上稲荷にまつわる曲「最上太鼓」でした。生徒達の心が一つとなり、熱い、熱い鼓動が伝わってきました。



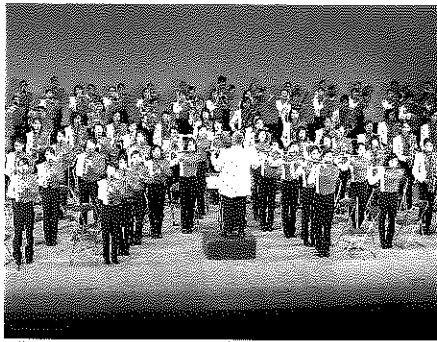
就実高等学校バトン部の「バトントURING」素晴らしいバトンの技とチーム一体となつた演技に魅了されました。



続いて、岡山県立岡山南高校吹奏楽部の演奏が行われました。総勢百十二名の部員に圧倒され、演奏やパフォーマンスに会場一体となり存分に楽しみました。



研究協議に入り、最初は、鳥取県立倉吉東高等学校友会前会長大津理恵さんより「子どもの背を押す育友会」



「NPO法人倉吉鴨水館」の設立をめぐって」と題し、発表がありました。鳥取県では、進学を志す浪人生のために「専攻科」が県立高校3校に設立されていました。

予備校が少ない地域性に対応し、将来の鳥取県を担う人材を育成することが設立の目的でした。

しかし、県による民業の圧迫と浪人生への県費投入を問題視する声を受け廃止となりました。

廃止決定後も、専攻科存続を望む大きな声を受け、専攻科に代わる学び場の設立に動き、県議会へ陳情書を提出し、県議会で趣旨採択を受けた後、NPO法人倉吉鴨水館が開学されました。設立された倉吉鴨水館は、倉吉東高校卒業生だけでなく、県内全域の浪人生の進学支援を目指しています。

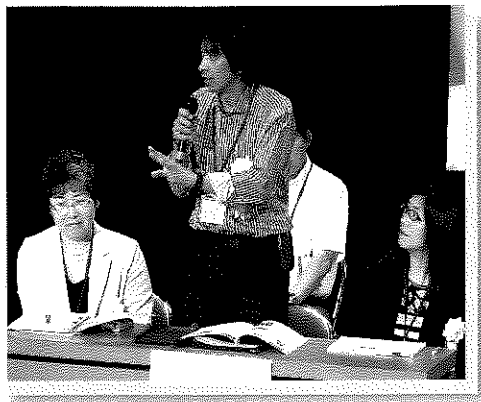
生徒数は、約五十名、県の財政支援を受けず、入館料と年間授業料で経営しているとの発表がありました。



続いて、広島県立松永高等学校PTA顧問山元龍一さんによる「忍の一字で見守るPTA」と題し、発表がありました。

松永高校が劇的に変化し、大きな成果をあげた背景には、生徒の純粋な気持ちにスポットをあて、そうした生徒を増やすこと、また、保護者からクレームをつけて先生を委縮させてしまうのではなく、「忍の一字で見守る」という「保護者の覚悟と信頼」が先生にとって大きな安心と精神的なバックアップとなり、生徒へ幅広く多様な指導や行動につながった事のようにです。

その成果は日に日に見違えるように良くなる学校を、地域を含めて全ての関係者が目の当たりにすることが出来ました。



最後の研究協議は、岡山県立岡山工業高校奨学会会長竹原多美子さんによ

る「保護者・生徒・地域が協力した社会貢献活動」虹の架け橋プロジェクトを中心として」と題し、発表がありました。

岡山県の県立高校では、卒業までに五日間以上の社会貢献活動を実施しています。実施する内容は、各学校にゆだねられています。



社会貢献活動を通し、社会の一員としての役割を果たすことにより、社会の構成員としての自覚を持ち、自分が価値ある存在だと実感したり、自己肯定感を高めたりして、自己探求や自己実現を図ることを目的にしています。

岡山工業高校では、工業高校の特徴を活かした取り組みを行っています。

特に、東日本大震災復興ボランティアを契機に始まった被災地支援事業「虹の架け橋プロジェクト」は、被災地の民間団体などが制作された商品を岡山市北区奉還町商店街のイベントスペース「りぶら」で販売することにより、

被災地の支援と地元商店街の活性化を図る活動です。

奨学会では、生徒が担当できない時間帯を中心に運営の一端を担うなど、保護者、生徒、先生が一体となった活動を進めています。

昨年度の活動は、生徒約六百名、保護者約百七十名の参加があり、被災地へ総額百六十三万円送るなどの報告がありました。

三校の研究協議後、質疑応答が行われ、参加者の多くが、これからのPTA活動において意欲的な活動をして行こうという思いが伝わってきました。



これで閉会行事に移り、中国・四国地区高等学校PTA連合会大会岡山大会も無事に閉会となりました。

(県高P連調査広報委員 柏原 功)

広島県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度

この制度の特徴

〈高校生総合保障制度は、こども総合保険のペットネームです。〉

1. 団体割引25%適用・損害率による割引5%適用
2. 病気・けが・賠償事故・携行品等を補償
3. 国内外を問わず24時間の傷害・病気を補償
○携行品（学校管理下動産担保特約）の補償は学校管理下中のみです。
○夜間・休日も24時間事故の受付をしております。
4. 「スクールメディカルデスク24」で24時間無料電話健康相談サービス付き
○「スクールメディカル・デスク24」は、東京海上日動メディカルサービス㈱との連携により、同社からご提供いたします。
※詳細はパンフレットをご確認下さい。
※補償期間(保険期間)は1年となります。(平成27年4月25日午後4時より平成28年4月25日午後4時まで1年間)
※中途加入は補償期間が異なります。詳しくは取扱代理店までお問合せください。

〈保険金額と掛金(保険料)〉

補償内容	W2タイプ	W1タイプ	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	
賠償責任 (記録情報限度額 500万円)	1事故 2億円 限度	1事故 1億円 限度	1事故 1億円 限度	1事故 5,000万円 限度	1事故 3,000万円 限度	
病気入院日額 (1日あたり)	4,000円	3,500円	—	—	—	
傷 害	入院日額 (1日あたり)	4,300円 (4,200円)	3,700円 (3,500円)	3,700円 (3,500円)	2,800円	2,400円 (2,300円)
	通院日額 (1日あたり)	3,200円 (2,800円)	2,200円 (2,000円)	2,100円 (1,900円)	1,200円 (1,000円)	900円 (800円)
手術	入院日額の10倍(入院中の手術)または5倍(入院中以外の手術)となります。 傷の処置等のお支払の対象外の手術があります。					
死亡・後遺障害	196.0万円 (191.3万円)	159.0万円 (135.0万円)	162.0万円 (152.2万円)	140.0万円 (136.2万円)	104.0万円 (98.1万円)	
被害事故補償	1事故 1,000万円 限度	1事故 1,000万円 限度	1事故 1,000万円 限度	—	—	
育英費用	100万円	100万円	100万円	50万円	—	
携行品損害補償 (学校管理下動産担保特約) 〈免責金額(自己負担額)〉	1年間で10万円限度 〈1事故1,000円〉	1年間で10万円限度 〈1事故1,000円〉	1年間で10万円限度 〈1事故1,000円〉	1年間で10万円限度 〈1事故1,000円〉	—	
年間保険料	14,650円	11,650円	9,650円	6,650円	4,650円	
制度維持費	350円	350円	350円	350円	350円	
制度掛金 (1年分)	15,000円	12,000円	10,000円	7,000円	5,000円	

○携行品の損害保険金は1年間で10万円が限度(注)となります。

(注)携行品の損害保険金のお支払額の合計が保険金額(10万円)と同額となった場合は、この携行品の補償は損害発生時に終了します。

※こども総合保険については被保険者(保険の対象となる方)ご本人の人数により保険金額が一部変更となることがあります。(上記保険金額は被保険者(保険の対象となる方)ご本人の人数が、5,000名以上10,000名未満の場合です。3,000名以上5,000名未満の場合は()内の保険金額となります。) ※制度掛金は制度維持費350円を含んでおります。

※上記保険料は職種別Aの方を対象としたものです。お子様(被保険者-保険の対象となる方)が継続的にアルバイトに従事している等で、職種別Aに該当しない場合は、保険料が異なりますので、取扱代理店にお問い合わせください。

※病気入院(入院医療保険金)について：新規ご加入時の支払責任の開始日より前に被った病気については保険金お支払いの対象となりません。(ただし、新規ご加入時の支払責任の開始する日からその日を含めて1年を経過した後に生じた保険金支払事由については、保険金お支払いの対象となります。)

このご案内はこども総合保険の内容についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

〈お問合せ先〉取扱代理店 (株)東海日動パートナーズ 中国四国 TEL:0120-018-217 平成27年3月作成 (14-T-13696)

(引受幹事保険会社)



TOKIOMARINE
NICHIDO

東京海上日動

(担当支社) 広島支店 広島中央支社
広島市中区八丁堀3-33 広島ビジネスタワー
TEL 082-511-9194

パンフレット・重要事項説明書は上記お問合せ先にご請求下さい。

(共同引受保険会社)



AIU損害保険(株)
広島支店

広島市中区基町11-10
合人社広島紙屋町ビル
TEL 082-222-4351

この保険契約は、以下の保険会社による共同保険契約であり、東京海上日動火災保険が他の引受保険会社の代理・代行を行います。各引受保険会社は、契約締結時に決定する引受割合に応じて、連帯することなく単独別個に保険契約上の責任を負います。なお、引受割合につきましては、団体窓口にご確認ください。

〈引受保険会社〉 東京海上日動火災保険(幹事保険会社) AIU損害保険株式会社